

(別表2) 公共工事に関する環境配慮の視点と配慮事項

環境配慮の視点	配慮事項	配慮事項の着目点	検討内容	検討時期		備考
				計画設計	施工	
1 野生生物への配慮	(1) 多様な緑地等の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重な動植物の生育地・生息地の保護（国の特別天然記念物・天然記念物を含む） ・自然植生に着目した植栽 	<ul style="list-style-type: none"> ・生育地等を回避、または代替環境の整備 ・緑の復元に当たり自然植生に着目した植栽とし、多様で多層な緑の創出 	○	○	ミティゲーション ビオトープ 貴重種の生育地等については自然保護課と協議のこと
	(2) 多様な水辺空間の保全と修復	<ul style="list-style-type: none"> ・「瀬」や「淵」などの保全 ・水域と陸域の接点の多様性確保 ・河畔林などの保全と創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・採餌、休息、繁殖の場所としての「瀬」、「淵」や「藻場」の保存と創出 ・中州、島、ワンドなど水辺の多様性の確保 ・水辺に木陰をつくる樹林・樹木などの河畔林の保全と創出 	○	○	多自然型河川
	(3) 多孔質な空間の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・空石積などの自然材料の使用 ・護岸などに空隙のある材料の使用 	<ul style="list-style-type: none"> ・石や木等を利用した多孔質な構造物の検討 ・植生護岸、石、木、環境ブロック等の空隙のある材料の使用 	○	○	自然石、間伐材など
	(4) 野生生物の移動ルートの確保	<ul style="list-style-type: none"> ・移動ルート分断に対する対策 ・河川や溪流の連続性の確保（魚道） 	<ul style="list-style-type: none"> ・大型野生動物～小動物のための移動路の確保（トンネル、橋梁、パイプカバート、水路） ・スリットダムや魚道等の設置 	○	○	
	(5) 照明の最小化・騒音の防止	<ul style="list-style-type: none"> ・遮光植栽やライトの位置 ・鳥獣保護区域内などでの低騒音・低振動機械の使用 	<ul style="list-style-type: none"> ・光の届く範囲を必要最小限にする遮光植栽やライトの位置の検討 	○	○	

環境配慮の視点	配慮事項	配慮事項の着目点	検討内容	検討時期		備考
				計画設計	施工	
2 自然景観への配慮	(1) 良好な自然景観の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・地形改変に際し現地形維持の努力 ・国の名勝指定を含む周辺の自然景観の保全 ・最小限の既存樹木の伐採 ・良好な景観を形成している樹木の保全 ・郷土種が含まれている表土の活用 ・植栽木の健全な維持・管理 ・良好な自然の利用者に対する配慮 	<ul style="list-style-type: none"> ・エコロード、多自然型川づくり等の検討 ・切土・盛土構造からトンネル・高架橋への変更や縦断計画の検討、既存林を生かした造成計画等 ・地域のシンボリック樹木を生かした施設計画 ・表土の緑化地や盛土法面への利用 ・利用活動への影響低減のため、施工時期、施工方法等の検討 	○ ○ ○ ○ ○ ○	○	
	(2) 緑化等による修景	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特色・季節感を考慮した植栽 ・修景のための建築物・工作物周辺への植栽 ・自然景観にふさわしい施設のデザイン、色彩、素材 ・ダム湖、ため池の修景緑化 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特色を生かした樹種や花木により季節感を考慮した植栽の検討 ・工作物の遮断のための樹木保全や遮蔽のための植栽による景観の保全の検討 ・地域の自然景観を損なわないような施設の形状や、色彩、素材の検討 ・湖岸の侵食防止や修景のための緑化の検討 	○ ○ ○ ○		

環境配慮の視点	配慮事項	配慮事項の着目点	検討内容	検討時期		備考
				計画設計	施工	
3 大気環境等への配慮	(1) 大気環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・排出ガス対策型建設機械の使用 ・工事用車両による走行粉塵などの防止 ・工作物解体に際し粉塵拡散の防止 ・自動車交通による大気汚染の防止 <ul style="list-style-type: none"> ・事故等に対する対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・「排出ガス対策型建設機械」や「トンネル工事用排出ガス対策型建設機械」の使用 ・工事用車両による仮設道路等での走行粉塵の防止や一般道路への土砂等散乱防止（タイヤ洗浄装置）、散乱した場合の速やかな除去体制等の検討 ・防塵シートや散水による粉塵拡散防止の検討 ・円滑な交通流確保、道路沿道の緑化 ・汚染拡散事故に対し、原因究明、被害の拡大防止措置のための関係機関との連携方策等の検討 	○	○ ○ ○ ○	
	(2) 騒音・振動の防止	<ul style="list-style-type: none"> ・低騒音・低振動工法の採用 ・遮音施設・低騒音舗装の採用 ・工作物解体に際し騒音・振動の低減化 ・低騒音・低振動型建設機械の使用 ・病院や学校周辺を回避する迂回路や資材運搬路の計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域条件により施工に当たって低騒音・低振動工法の導入検討 ・地域条件により遮音施設・低騒音舗装の採用 ・防音シートや防音塀の設置、低音・低振動型作業機器の選定、作業時間の調整等の検討 ・地域条件により低騒音・低振動の施工方法や低騒音・低振動型建設機械の使用の検討 ・運搬車両の分散化 		○ ○ ○ ○	「建設工事に伴う騒音振動対策技術基準」

環境配慮の視点	環境配慮事項	配慮事項の着目点	検討内容	検討時期		備考
				計画設計	施工	
4 水環境等への配慮	(1) 水質の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事中に生じる濁水の発生と流出防止 ・ 下流域の水質基準を守るための対策の検討 ・ 事故等に対する対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 河川や排水路への濁水流入が少なくなるような施工時期(梅雨、台風期を避ける)、方法・手順(瀬替、切土、盛土、法面等の施工方法・手順)、汚濁防止膜や汚濁処理装置等の設置の検討 ・ 多自然型川づくり、自然浄化機能を活用した工法の検討 ・ 水質事故に対し、原因究明、被害の拡大防止措置のための関係機関との連携方策等の検討 	○	○	
	(2) 河川・湖沼等の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水辺空間の確保 ・ 維持流量の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な水辺として活用できるような堤防、アクセス道、溪流づくり等の検討 ・ 流水の正常な機能を維持するための流量の確保 	○ ○		
	(3) 海域の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水辺空間の確保 ・ 海水交換が可能な構造の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な水辺として活用できるような階段式護岸、離岸堤等の検討や砂浜の保全と回復 ・ 静穏域を確保し、海水交換が可能な外郭施設の検討 	○ ○		

環境配慮の視点	環境配慮事項	配慮事項の着目点	検討内容	検討時期		備考
				計画設計	施工	
4 水環境等への配慮	(4) 地下水の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・水資源の維持 ・地下水の水質基準を守るための対策の検討 ・地下構造物による地下水帯層の分断防止 ・工事中に生じる有害物質の発生と地下水への浸透防止 	<ul style="list-style-type: none"> ・緑化、透水性舗装等による雨水の地下浸透促進、保水機能確保の検討、地下水を利用しない消雪工法や有効利用する消雪工法の検討 ・大規模な基礎や地下構造物の建設に際して、地下水帯層の分断防止に配慮する。 ・有害物質の地下水への浸透を防止する工法の検討 	○ ○ ○	○ ○	
	(5) 土壌汚染対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・土壌汚染状況調査の実施 ・土壌汚染対策の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・有害物質取扱い工場・事業場跡地における工事の計画 ・「指定区域」の確認 ・汚染土壌の除去等 ・工事による汚染の周辺への二次拡散の防止 	○ ○	○ ○	土壌汚染対策法

環境配慮の視点	配慮事項	配慮事項の着目点	検討内容	検討時期		備考
				計画設計	施工	
5 省資源・省エネルギーへの配慮	(1) 省資源・省エネルギーの推進	<ul style="list-style-type: none"> 省資源・省エネルギーとなるような施設や設備の検討 工事用機械および工事用車両の燃料節約の運転を指導 	<ul style="list-style-type: none"> 代替型砕工法、省エネ効果の高い工法の検討 工事用機械および工事用車両の日常整備・過負荷運転の防止、アイドリングストップ 	○	○	
	(2) 新エネルギーの導入	<ul style="list-style-type: none"> 地熱、太陽光など自然エネルギーの利用 エネルギー使用の合理化 廃熱などの未利用エネルギーの利用 	<ul style="list-style-type: none"> 地熱、太陽光等を利用した消雪や空調の検討 	○		
6 廃棄物の減量化とリサイクルの推進への配慮	(1) 廃棄物の発生抑制	<ul style="list-style-type: none"> 計画設計段階からの発生抑制 	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物の発生抑制に資する工法・資材などの採用の検討 計画段階（線形・施設配置など）での発生抑制の検討 施設の長寿命化の検討 	○		
	(2) 再利用とグリーン購入の促進	<ul style="list-style-type: none"> 分別再資源化と再生資源の利用の促進（公共工事におけるリサイクルの徹底） グリーン購入の利用促進 	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物を分別し、再資源化 再生資源の利用の検討 再利用化しやすい資材の利用 現場内利用の促進 工事間流用の促進（情報交換） 間伐材等、環境負荷の少ない工事資材等の利用の検討 	○	○	リサイクル認定品 マテリアルリサイクル サーマルリサイクル 建設発生土情報交換システム
	(3) 廃棄物の適正処理の推進	<ul style="list-style-type: none"> 適正処理の推進と確認 	<ul style="list-style-type: none"> 適正な処理方法、処理場所の指定 処理費用、運搬費用などを適正に積算 処理状況の把握 	○	○	マニフェストシステム

環境配慮の視点	配慮事項	配慮事項の着目点	検討内容	検討時期		備考
				計画設計	施工	
7 歴史的・文化的環境への配慮	(1) 地域景観との調和	<ul style="list-style-type: none"> ・地域景観に配慮を要する地域内での施設設計の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・「景観づくり基本計画」、自然公園、景勝地等での景観に配慮した施設の検討 ・近代化遺産として評価を受けている建造物や、既に「登録文化財」として保護されている建造物等を取り巻く周辺の景観に配慮した景観作り 	○		環境・景観検討委員会 県農業農村整備事業環境配慮情報協議会
	(2) 歴史的・文化的遺産の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・史跡、埋蔵文化財、「重要伝統的建造物群」などに対する配慮 	<ul style="list-style-type: none"> ・国、県、市町村指定の文化財を含む文化財を保護し、埋蔵文化財包蔵地を事前に回避する計画の検討 ・「重要伝統的建造物群」の景観に配慮した施設の検討 	○		